

平成29年8月3日開会

かけがわ中学生議会 会議録



かけがわ中学生議会会議録 目次

平成29年8月3日（木）開会

開会（午後 1時32分）	-----	1
○副議長 榛葉正樹君（あいさつ）	-----	1
○市長 松井三郎君（あいさつ）	-----	2
日程第1 会期の決定	-----	3
日程第2 一般質問	-----	4
○1番 北中学校（河原崎駿君、松永凜果君）	-----	4
○2番 栄川中学校（鈴木愁君、小泉香菜枝君）	-----	7
○3番 東中学校（片桐隆我君、瀧澤晴菜君）	-----	11
・休憩（午後 2時31分）	-----	14
・開議（午後 2時41分）	-----	14
○4番 原野谷中学校（齋木大地君、石川鈴菜君）	-----	14
○5番 西中学校（小出翔大君、大長みなみ君）	-----	18
○6番 大須賀中学校（浦山拓実君、太田絢寧君）	-----	22
・休憩（午後 3時28分）	-----	26
・開議（午後 3時40分）	-----	26
○7番 桜が丘中学校（高橋駿介君、土屋日南子君）	-----	26
○8番 大浜中学校（大石清地君、中村日和君）	-----	29
○9番 城東中学校（草間一陽君、岡部彩乃君）	-----	34
日程第3 議員提出議案第1号	-----	38
○中学生議長 齋木大地君（あいさつ）	-----	40
○副市長 浅井正人君（講評）	-----	40
閉会（午後4時45分）	-----	42

議 事

午後 1 時 3 2 分 開会

○議会事務局長（栗田一吉君） ただいまからかけがわ中学生議会を始めます。

開議に先立ち、掛川市議会、榛葉正樹副議長から御挨拶申し上げます。

〔掛川市議会副議長 榛葉正樹君 登壇〕

○掛川市議会副議長（榛葉正樹君） 皆さん、こんにちは。

御紹介いただきました掛川市議会副議長の榛葉正樹でございます。

いよいよ掛川市の中学生議会本番でございます。本日、掛川市議会の鈴木正治議長が本来なら開会の挨拶をする予定でございますけれども、所用により欠席ということでございますので、副議長がかわりに御挨拶をさせていただきたいと思っております。

いよいよきょう本番ということでございますが、これまで皆さんは学習会と、そしてリハーサルをこなしていただきまして、最初はすごく緊張したかもしれませんが、きょう本番、さらに緊張しているかもしれませんけれども、頑張ってくださいなというように思っております。

実は私たち議員もこの本会議場に来るといまだに緊張します。それはこの本会議場というのは掛川市の重要事項を議論して、そして決定する場所であります。いまだに議員もさらに一般質問になるともっと緊張するということございますし、また、この本会議場の設計を見てもらってわかるように、ふだん市長が仕事をしている場所だったり、議員がいる場所、委員会とか会議をする場所よりさらに一段上の場所にこの本会議場があるわけでありまして、そういったところから見てもこの本会議場というのは最大限敬意をあらわしている場所だというように思っているところでございますので、緊張するかもしれませんが、頑張ってくださいなと思っております。

そして、きょう皆さんが行う一般質問でございますが、これは市長や教育長が答弁をしてくれると思いますが、皆様は同等の立場できょう一般質問をしていただくということでございますので、堂々とまた大きな声でしっかりと議論を交わしていただければと思っておりますし、ことしからは再質問も認められております。15分という限られた時間ではありますけれども、納得のいくまで議論を交わしていただきたいとこのように考えているところでございます。

そして、この中学生議会が終わりましたら、また御家族であったり、またお友達にきょうのこともお話をさせていただきたいと思っております。これからさらに政治に興味を持っていただく、また、ふだん見ているニュースとかも見方が変わってくるかもしれませんし、また、この中から将来政治家になりたいなと思う方も出てくるかもしれません。そうなれば本当にうれしいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

結びになりますけれども、きょうこの中学生議会が皆様の今後の人生にとって、実り多き経験になりますことを心より祈念いたしまして、開会の挨拶といたします。それでは、皆さん、本日は頑張ってください。

終わります。

○議会事務局長（栗田一吉君） ありがとうございます。

続きまして、当局を代表して松井三郎掛川市長より御挨拶をお願いいたします。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 改めまして、皆さん、こんにちは。

掛川市長の松井でございます。

本日は掛川市では 2回目となりますかけがわ中学生議会に18人の中学生の議員の皆さんに参加をいただいております。掛川市長として大変うれしく、そして楽しみにしております。

この場から中学生議員の皆さんの顔を拝見しますと、これから始まるこの中学生議会に対する大変強い意欲と情熱が伝わってまいります。大変頼もしくも感じております。

皆さんが座っておられる議場は、選挙で選ばれた21人の市議会議員の皆さんと私ども市当局が市民の皆さんの幸せのために議論をしている大変大切な場所であります。公職選挙法が改正され、18歳から選挙に参加できることになりましたが、掛川市の未来を担う皆さんが市議会の運営を直接体験し、この議場でまちづくりの議論を行うことは大変有意義であり、貴重な人生の体験になると思います。ぜひこの貴重な体験を多くの友達、家族、いろんな方に伝えていただき、多くの若者がこの掛川市のまちづくりに関心を持っていただく機会になれば大変うれしいと思います。

本日、中学生議員としてのこの議場において、私たちの掛川市をさらに住みよいまちにするため、皆さんが一生懸命考えてこられたことを御質問いただくわけであります。少し緊張をするかもしれませんが、自信を持って質問をいただき、皆さんの考えていること、皆さんの思い描いている未来への夢、それから希望をしっかりと伝えていただきたいと思います。私たちも皆さんの御質問に精いっぱいしっかり答弁をさせていただくとともに、皆さんからいただいた素晴らしい意見や提案はしっかり政策に生かし、若い人たちの未来のため、一生懸命まちづくりに取り組んでいきたいというふうに思っております。

結びに、かけがわ中学生議会の開催に当たりまして大変御尽力をいただきました学校関係の皆様、それから保護者の皆様、そして市議会の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後も市政運営に対しまして一層の御支援と御協力をお願いを申し上げます。

最後の最後ですけれども、きょうは教育長が休んでいます。皆様からの質問が大変素晴らしいと

いうことで緊張をし過ぎて体調を悪くしたということではないと思いますが、やっぱり議長もそうですし、教育長もそうです。こういうところで皆さんと議論をするということは、私どもにとっても大変緊張します。私も通常の議会よりも実は大変緊張をしております。緊張をしている中でしっかりした議論展開をしていきたいというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

以上であります。

○議会事務局長（栗田一吉君） ありがとうございます。

次に、当局側の出席者を御紹介させていただきます。

お名前をお呼びしますので、その場で御起立いただきたいと思います。

伊村義孝副市長、浅井正人副市長、釜下理事兼総務部長、鈴木理事兼企画政策部長。以下、関係部課長の皆様です。よろしく願いいたします。

それでは、議長を務めます齋木大地議員におかれましては、議長席のほうにお移りいただきたいと思っております。こちらへどうぞお願いいたします。

〔齋木大地君 議長席に着座〕

○議長（齋木大地君） こんにちは。

ただいま御紹介を受けました議長を務めます原野谷中学校、齋木大地です。よろしく願いします。

開議に先立ち、私からの諸般の報告として 1点御報告申し上げます。

鈴木正治市議会議長、山田文子教育長におかれましては、所用により本日の本会議を欠席する旨、届け出がありましたので、報告いたします。

以上、報告とします。

開 会

○議長（齋木大地君） ただいまの出席議員数は18名です。定足数に達していますので、これからかけがわ中学生議会を開会します。

開 議

○議長（齋木大地君） これから本日の会議を開きます。

日程第1 会期の決定

○議長（齋木大地君） 日程第1、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

かけがわ中学生議会の会期は、本日 1日限りといたしたいと思っております。これに御異議ありますか。

〔「異議なし」との声あり〕

○議長（齋木大地君） 御異議なしと認めます。したがって、会期は本日 1日限りと決定しました。

日程第2 一般質問

○議長（齋木大地君） 日程第2、一般質問を行います。

発言の順序表により順次発言を許可します。

なお、議事の都合により、一般質問は一括方式で行います。再質問は回数制限なくできることとし、時間は答弁、再質問を含め15分以内とします。第1回目の質問については、議員及び答弁者はいずれも登壇することとし、再質問以降については、いずれも自席にて起立の上、必ず質問項目を述べてから質問するようお願いします。なお、答弁については、重複することのないよう、簡潔にお願いします。

1番 北中学校の一般質問

○議長（齋木大地君） それでは、まず、1番、北中学校の発言を許します。河原崎君、松永さん、御登壇ください。

〔1番 河原崎駿君、松永凜果さん 登壇〕

○1番（河原崎駿君、松永凜果君） 1番、北中学校、河原崎駿、松永凜果。

通告に従って、一般質問を始めます。

○1番（河原崎駿君） まず最初に、私たちは掛川市は住みやすくとてもよい市だと感じています。例えば、交通道路のアクセスのよさや新幹線の駅など代表される交通の便がよいことです。また、掛川城や花鳥園、温泉施設などの観光施設が充実していること、さらに、お茶やイチゴなどの特産品などがあることが魅力だと思っています。

そこで、さらに掛川市の魅力を高めるために私たちが考えた施策について、市長の考えを伺います。

最初の質問です。

僕は中学校生活3年間で、ならこの里職業体験を学びました。そこで掛川について物足りなさを感じました。なので、ならこの里でお茶に続く第2の特産品として葛を栽培することを提案します。ならここは市の運営下なので、利益にもつながると思います。葛は栄養価が高く、高血圧、風邪予防、リラックス効果があると古くから使われてきました。市長の考えはいかがでしょうか。

○1番（松永凜果君） 2つ目の質問です。

私は吹奏楽部に所属しています。そのため、よく演奏会やコンサートを聞きに浜松市に行きます。掛川市にも音響設備の整ったコンサートホールと、そこを拠点として活動する楽団や財団の育成・支援をすることで文化的な質が向上すると考えます。そうすることでより掛川市を知ってもらうこ

とつながり、循環のある市になっていくと思うのですが、市長の考えはいかがですか。

3つ目の質問です。

より若者たちを集め、この掛川市を活気のある市とするためにも、つま恋やエコパといった大型施設との連携やイベントの共同開催をすることで市外から多くの人を訪れると考えますが、市長の考えはいかがですか。

以上で質問を終わります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 河原崎議員の質問にお答えをいたします。

最初のならここの里に葛を栽培して、葛粉を特産品にしたらどうだという御質問であります。おっしゃるとおりだというふうに思って、今掛川市でも葛を改めて伝統産業として世に出していこうとこういふことで掛川市の葛利活用委員会を立ち上げて、いろんな研究をスタートしております。葛は葛布だけでなく、葛の根が葛粉になるとこういふことでありますが、茎とか葉とか花、これを一体的に全て利用をしていこうという調査研究をしておりますので、とりわけ、ならここの場でもこの葛の利活用をしっかり進めていきたいと思っております。

今、葛粉については掛川で葛粉を供給している状況にはありません。九州とか奈良のほうから取り寄せて葛湯のもと、お菓子にしているというところでありますので、しっかりこの葛粉、葛が特産品になるように努力をしていきたいというふうに思っております。

それから、音楽の関係、文化的な質の向上をしっかり図ってという御質問であります。掛川市では、生涯学習センターとかシオーネとか美感ホールというところで、オーケストラとか有名な演奏家をお招きしてコンサートなどを実施をしております。市内学校に出向いて地元の芸術家、それから団体に演奏をしていただくということも進めておりますし、2カ月に1回、お昼の時間、この市役所においてもミニコンサートを開くなど音楽を市民の皆さんがしっかり楽しめるような事業展開をしております。

特に昨年度は市民の芸術活動意識の高まりから市民合唱団と市民ダンス劇団を立ち上げました。両団体は生涯学習センターやシオーネで熱心に練習を重ねた結果、市民合唱団はことしの3月、レクイエムコンサートにおいて、イタリア・ロッシーニ歌劇場管弦楽団と共演をしました。いろいろな素晴らしい初舞台を踏んだところであります。

いずれにしろ、文化を楽しむ人、それから文化を支える人をふやし、掛川市の文化的活動の質の

向上を目指してまいります。

それから、3つ目の大型施設のイベントの開催ということでもありますけれども、つま恋がとりわけ一時閉鎖するのではないかという心配をおかけしましたが、ヤマハ株式会社からH I Mというホテルマネージメントインターナショナルという会社に経営が移りました。この新しく経営を引き継いだ会社はこのつま恋の今の集客の人数が大体年間40万人ぐらいなんですけれども、これを100万人、あるいはそれ以上にしていこうという今いろんな取り組みを進めてくれております。そういう意味では、つま恋だけでなく、エコパもいろんなそういう誘客イベントを開催する中でしっかり掛川の魅力を発信していきたいと考えております。

以上であります。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

1番、北中学校。

○1番（河原崎駿君） 先ほど市長が葛粉を使った商品開発をしていると言っていましたが、商品開発だけではなく、料理などのレシピを公表すれば葛粉や片栗粉のかわりとして使えるので、より一層葛粉を使ってもらえるのではないのでしょうか。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 先ほどもちょっと触れましたけれども、この葛はいろんな活用の仕方がある。壁紙、ふすま紙のような活用、それから今言ったお菓子のようなもの、それから食品に入れてそれを食べるとこういういろんな活用がありますが、今のところそれが広く多くの掛川市内、あるいは全国に広がっておりませんので、今御指摘のあったレシピのようなものをつくって食品としても葛が活用されるという工夫を先ほども言いましたけれども、研究会の中で取り組んでいますし、さらに、それをしっかり取り組むようにしていきたいと考えております。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

1番、北中学校。

○1番（松永凜果君） 3つ目に行った質問についてですが、つま恋やエコパでは既にイベントを行っている聞いています。例えば、アニメやアイドルなどといった若い年代の人たちが集まるようなイベントを行ったらどうでしょうか。市長の考えはいかがですか。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） つま恋は40年ももっと昔に皆さんは御存じないだろうけれども、フォーク

ソングのメッカと言われて、あそこで若者が24時間コンサートを開いて、何万人という方が東京、あるいは全国から来て大フィーバーを繰り広げたということでもあります。最近では少しその催しが停滞をしていますが、3年ほど前まではa p b a n kというのを御存じかどうかわかりませんが、これは若者が環境問題をテーマにして音楽コンサート等々をやるというような、それが8年間続きました。これは本当に若者が集まって自主的にそういうイベントを、音楽コンサートを展開したということでもあります。

そのときには本当に掛川のまちにも若い人がたくさん集まってきたということでもありますので、今御指摘のあったように若い人が集まれるようなアニメ、これらについても全くやっていないわけではありませんけれども、大きな集客のある場所つま恋とかエコパでそれらの取り組みをしっかりと検討しながら推進できるように努力をしていきたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

1番、北中学校。

○1番（河原崎駿君） 以上で再質問はありません。ぜひ実行してください。

○1番（松永凜果君） 再質問はありません。ぜひ検討をよろしくお願いいたします。

○議長（齋木大地君） 市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 大変掛川市にとって、将来にわたって大変重要な御質問だと思いましたが、しっかり政策に反映できるよう努力をしていきたいとこう思っております。

以上であります。

○議長（齋木大地君） 以上で、1番、北中学校の質問は終わりました。

2番 栄川中学校の一般質問

○議長（齋木大地君） 次に、2番、栄川中学校の発言を許します。鈴木君、小泉さん、御登壇ください。

〔2番 鈴木愁君、小泉香菜枝君 登壇〕

○2番（鈴木愁君、小泉香菜枝君） 2番、栄川中学校、鈴木愁、小泉香菜枝。

通告に従って、一般質問を始めます。

○2番（小泉香菜枝君） 私たちは八坂地区、日坂地区に住んでいます。八坂地区では、お祭りの時期になると青年や子供が来て地区がにぎわいますが、実際に住んでいる人は少ないです。そのため、地区の総会では青年の意見も少なく、若い世代が活躍したり、やりたいと思ったりするようなイベントも少ないです。また、日坂地区には高齢者が多く住んでいます、最近全国的にも話題と

なる高齢者の運転免許返納施策が進められると高齢者の生活が不便になることが予想されます。

これらのように若い世代や高齢者が住みやすいまちづくりに課題を感じています。そこで、市長の考えを伺います。

○2番（鈴木愁君） 1つ目の質問をします。

僕たちの住んでいる八坂地区、日坂地区では少子高齢化が進んでいます。この八坂地区、日坂地区だけではなく、掛川市内では少子高齢化が進んでいると思います。そこで、若い人を掛川市郊外にふやすためにどのような施策を計画をしているか。

2つ目の質問です。

若い人も高齢者も含めて多くの人が注目するイベントなどを計画をしているか。

○2番（小泉香菜枝君） 3つ目の質問です。

路線バスは本数が少なく、中東遠医療センターに行くのでさえ乗りかえが必要であり、不便を感じている高齢者がいますが、自動車以外の交通手段がない人の移動手段の確保についてどのように考えていますか。

以上で質問を終わります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 小泉さんと鈴木さんにお答えをいたします。

人口減少問題というのはどこの基礎自治体にとっても最重要課題の一つであります。住みやすいまちづくりをどうやって進めていく、あるいは築いていくかということが大変重要であります。

幸いにも掛川市は昨年もそうでしたけれども、ここ4月、5月、6月、7月、人口はふえてきております。亡くなられる方と、それから生まれてくるこの数は亡くなられる方のほうが多いわけですが、ほかの地域、地区から掛川市に人が集まってきているということで、全体の人口はふえている状況にある。ただ、そのふえているところは場所によって掛川市の南とか、今お話のあった日坂地区とかというところは少しずつ人口が減ってきているという状況にあります。そういう意味で、郊外に人がたくさん住めるようないろんな施策をしっかりと進めていかなければいけないというふうに思っております。

トータルでいろいろ考えますと、これは仕事をする場所をたくさんつくっていくとか、子育て支援策、保育施設なんかをしっかりと待機児童がないようにしていくとかいろんな施策がありますけれども、皆さんも住まわれているようなところについては多分空き家なんかもだんだんふえてきてい

るというふうに思いますので、そういうところに多くの方が住んでいけるような施策展開、移住定住をどんどんふやしていくような、そういう仕組みをしっかりと考えていかなければいけない。

それと、やっぱり魅力をどうやってつくり上げていくか、ぜひ御提言をいただきたい。私ならこう考えるということもお話をいただければ、大変ありがたいというふうに思っております。

いずれにしても、高校を卒業した人たち、あるいは進学、就職で外に出られた方がしっかり戻って来られるようなそういう方策をしっかりと。その一つが私はお祭りが好きなので、お祭りを中心に自分たちの郷土を非常に誇りに思えるような、そういう取り組みも重要ではないかなというふうに思います。

いずれにしろ、いろんな施策を進めていきますけれども、100%これだということまで至っておりませんので、ぜひいろんな御提言をいただきたいというふうに思います。

それから、若い人も高齢者も含めて多くの方が注目をするようなイベントでありますけれども、これについても大変難しいわけでありまして、昨年、日坂地区でGAW展をやりました。真夏の暑いときだったものだから、多分主催者が思っているほどお客さんが来なかったかもしれませんが、ああいうものを継続的に続けていくということになると、さらに日坂の街道の魅力を高めていくということがその周辺に元気が生まれてくるというふうにも思っておりますので、そういうイベントをしっかりと進めていきたい。

同時にことしでありますけれども、掛川市全体にかけがわ茶エンナーレという取り組みを進めています。今イベント的なものをやっておりますけれども、ことしの10月21日から11月19日の30日間、お茶文化を中心にいろんなプロの芸術家の取り組みと、それから掛川市民のいろんな文化・芸術の取り組みをコラボしながら掛川全体をミュージアムにしていこうという取り組みも進めております。

いずれにしろ、若い人だけにとということだけでなく、高齢者も子供たちもみんなが参加できるようなそういう文化・芸術活動もこれからも進めていきたいというふうに思っておりますので、皆さんにおいてもその魅力を生かしたイベントをぜひ企画をしてみてください、大変ありがたいというふうに思っております。

それから、自動車以外の交通手段がない人の移動手段の確保ということでもあります。一番掛川市行政において重要な課題だというふうに捉えております。これからどんどん高齢化が進んでいくということになりますと、みずからが移動する手段をみずからで確保することができないという人たちがどんどんふえてくる、これをどう行政として移動手段を提供できるかということが大変重要だと。そういう意味では、いろんな公共バスを含めてそういうものがいろんな地域に路線バスとして

行っていますが、そのバスのところまで行く手段がやっぱりもうなくなったとこういうことでありますので、移動手段というのは本当に重要なものだというふうに考えております。

今掛川市のいろんなバス路線とか、いろんな福祉バスとかそういうものに大体税金を1億5,000万円から2億円ぐらい使っております。これをどこまでふやして足の確保をするかということもこれから議論をしていかないといけない。それから、第一番重要なことは高齢者の世帯が多くなってきて二人世帯、あるいはひとり世帯で家族に頼るといことができないということがふえてきますので、そうしたときには地域のコミュニティーの中で、そういう人たちの買い物に行くとか病院に行くとか移動手段をぜひ検討する福祉バスのようなものについても東山、西山口とかいろんなところで実際にやられておりますけれども、その輪をさらにふやしていくということも一方で大事だというふうに思っております。本当にこれからの最重要課題の一つだと思っておりますので、いろいろなお知恵をいただければ大変ありがたいというふうに思っております。

私からは以上であります。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

2番、栄川中学校。

○2番（鈴木愁君） 僕たちの住んでいる八坂地区には道の駅があります。道の駅にはたくさんの人が集まります。そこで東名高速道路の刈谷サービスエリアのオアシスステージみたいに野外ステージをつくるといいと思います。ダンスをやったり、太鼓等など地域で活動をしたりしている人たちや小・中学校の発表などで利用をすれば、今以上に高齢者も若い世代の人たちも集まってもらえると思うからです。そのため、市長の考えを伺いたいと思います。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 道の駅は大変成功した取り組みの一つだというふうに思っております。そういう意味でたくさんの方が朝市のようなものを含めて集まってこられますので、今お話のあった野外ステージのようなものを用意して、さらにいろんな地域の方が楽しんで元気になってもらうとこういう施策も大変有効なことだというふうに思いますので、少し検討をさせていただきたいと思ういます。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

2番、栄川中学校。

○2番（小泉香菜枝君） 3つ目の質問について再質問です。

例えば、中東遠総合医療センターに行くのに東山のバス停から乗りかえなしで行けるのは1日に

1本しかありません。そのほかは乗りかえが必要で、具体的な時間を言えば 7時10分に東山バス停を出発するバスに乗ったとすると、7時44分に掛川駅に着き、そこから中東遠総合医療センターに行けるバスは 8時22分に掛川駅を出発し、8時37分ごろに到着するバスです。相当な時間がかかり、帰りにも 1時間に 1本以下のペースでしかバスがありません。なので、バスの本数をもう少しふやしていただけないでしょうか。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） ふやしたいです、たくさん。これは東山あるいは日坂地区だけの問題ではありません。後で質問が出るのかもしれませんが、南部地域の皆さんからの声も非常に大きく出ております。北に行く、原泉に行く自主運行バスというのがあるんですけども、本数が少ないのか、乗車していただける人数が極めて少ない。東山からの路線バスの利用者数も 1便平均 6.1人ということです。

これは本数が少ないので、乗る方が少ないということも当然あるのかもしれませんが、この辺の工夫が大変必要だと。ほとんどの路線で大体乗っていただける方が乗車率でいきますと20%からそのくらいです。もう少したくさん乗っていただければ、逆に言うと本数をふやすということが可能なわけではありますが、先ほど申し上げましたように市の税金の持ち出しが大変大きいということなのでこれは議会からの提言もあって、15%よりも少ない乗車率のバス路線はもうやめるべきだというのが議会からの御意見で、当局側もそういうふうなことで今進めておりますが、本当に高齢化がどんどん進んでくるということでもありますので、病院にも行けないということがあってはいけないということでもありますので、先ほども触れましたけれども、福祉バスとかデマンドタクシーとかいろんな手段を使って、高齢者がしっかり移動できるようなそういう取り組みを進めていきたい。バスの本数も少し改めてしっかり検討をしてみたいと思います。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

2番、栄川中学校。

○2番（鈴木愁君） ぜひ検討をお願いします。

○2番（小泉香菜枝君） 大変勉強になりました。ありがとうございます。

○議長（齋木大地君） 以上で、2番、栄川中学校の質問を終わりました。

3番 東中学校の一般質問

○議長（齋木大地君） 次に、3番、東中学校の発言を許します。片桐君、瀧澤さん、御登壇ください。

〔3番 片桐隆我君、瀧澤晴菜君 登壇〕

○3番（片桐隆我君、瀧澤晴菜君） 3番、東中学校、片桐隆我、瀧澤晴菜。

通告に従って、一般質問を始めます。

○3番（瀧澤晴菜君） 市長は戦略目標に教育日本一を掲げていますが、教育にはよい環境が必要だと私たちは考えます。さらに、そのよい環境で育った若者が学校の外でも活躍し、まちのにぎわいの演出に貢献できることも広い意味で教育日本一にとって重要であると考えます。

そこで、中・高生が持っている資質や能力を高め、その高めた力をまちづくりに生かしていくことができる施策について考えを伺いたいです。

○3番（片桐隆我君） 1つ目の質問です。

広報かけがわ 6月号では、英語力の向上と海外で活躍できる人材の育成が目標として掲げられていましたが、具体的にどのような取り組みをするのか、お伺いします。

2つ目の質問です。

東中学校では「学び合い」が重点目標となっており、タブレット端末や今よりもっと大きなテレビモニターを導入してもらえると、将来海外で活躍できるような議論を活発に行える力が身につくと考えますが、市長の考えをお伺いします。

○3番（瀧澤晴菜君） 3つ目の質問です。

東中学校では、納涼祭や光のオブジェ展など学校で身につけた能力を発揮する場として地域のイベントにも積極的に参加していますが、中・高生が中心市街地の活性化に積極的に参加できるイベントをほかに考えていますか。

以上で 1回目の質問を終わります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 小・中学校の教育環境の向上がいろんな意味で大変すばらしい人づくりにつながっていくというふうに思いますので、そういう努力はしっかりしていかなければいけないというふうに思います。

私からは 3番目の御質問にお答えをし、1番目と 2番目の御質問についてはこの後教育委員会からお答えを申し上げます。

まず、中心市街地のイベントでありますけれども、いろんな中心市街地のイベントを実施をしております。例えばけっトラ市とか、つい最近も納涼祭、それから商工まつり、かけがわポップ

カルチャーサミット、いろんな取り組みをしてきております。特にこういった取り組みを新たなものが今頭に浮かんできませんが、例えばけっトラ市で皆さんの活動の紹介ブースを設けたり、あるいは再開発事業で整備したにぎわい広場がありますので、中学生などのミニコンサート、それから発表会などもそこで開催できればと。

駅前のマンションとw e + 1 3 8 というスーパーの間に少し広場を設けてありますので、その有効活用をぜひしていただきたいと、市街地活性化につながる企画御提言をいただければ大変ありがたいというふうに思っておりますので、中学生の皆さんの思いをぜひお伝えをいただければ、そういう取り組みをあの場合めて中心市街地で展開をしていきたいというふうに思っています。

答えになったかどうかわかりませんが、以上であります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

笹本教育部長。

〔教育部長 笹本厚君 登壇〕

○教育部長（笹本厚君） 私からは 1つ目と 2つ目の御質問についてお答えいたします。

まず、1つ目の英語力の向上と海外で活躍できる人材の育成についてでございますが、掛川市では11名のALTを市内全ての小・中学校に派遣し、「話す・聞く・書く・読む」の英語4技能によるコミュニケーション能力を高めております。来年度からは小学校3、4年生で外国語活動を、5、6年生で外国語科を段階的に実施することとなりますので、小・中学校の9年間を通してさらに英語力を高めることができるよう、掛川の小・中一貫英語授業計画である掛川スタンダードを活用しまして授業づくりを進めてまいります。

夏休みにはさくら咲く学校で行う英語体験活動に毎年100名以上の小学生が参加し、本物の英語に触れ、活用する機会となっております。さらに、中学・高校生には姉妹都市であるコーニング市やユージン市への友好訪問団の派遣などの機会もあります。

掛川市で英語を学び、コミュニケーションの楽しさや大切さを知り、英語力を身につけた皆さんが国内外のいろんな人たちと積極的にかかわることを願い、さらに取り組みの充実を図っていききたいと考えております。

次に、2つ目のタブレット端末や大きなテレビモニターを学校に導入したほうが将来海外でも活躍できるような議論を活発に行える力が身につくのではという御意見についてですが、掛川市では、平成27年3月に掛川市教育情報化推進基本計画を策定し、平成31年までに全部の小学校・中学校のパソコン室をタブレット化するなどICT機器の整備について計画的に進めております。

今年度、全中学校と小学校2校にP e p p e r が配置されました。さらに、P e p p e r でプロ

グラミング教育を推進するため、9月にP e p p e r 配置校に大きなテレビモニターとして使えるプロジェクター 1台と学級数分のタブレットが入る予定です。これらを有効に活用し、東中学校で行っている「学び合い」を深め、友達同士の対話やプログラミング学習などで論理的な思考力を育み、日本だけでなく、世界でも活躍する人になってほしいと願っております。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

3番、東中学校。

○3番（片桐隆我君） 再質問はありません。ぜひ実行をお願いします。

○議長（齋木大地君） 3番、東中学校。

○3番（瀧澤晴菜君） 再質問はありません。ぜひ検討をお願いします。

○議長（齋木大地君） 市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 教育部長がお答えをしたことについても市長としてしっかり対応できるようにしていきたいというふうに思っております。

それから、私のほうからも先ほどもちょっと触れましたけれども、いろんな中学生の中心市街地のイベントへの参加はいただいておりますが、さらに、どんな取り組みが中心市街地の活性化につながるのかという皆さんのやわらかい頭というか、発想でぜひ企画御提言をいただければ大変うれしいというふうに思っておりますので、きょうということではありませんけれども、また帰って東中学校の皆さんと議論をしながら御提言をいただければというふうに思っています。どうもありがとうございました。

○議長（齋木大地君） 以上で、3番、東中学校の質問は終わりました。

この際、しばらく休憩とします。

午後2時31分 休憩

午後2時41分 開議

○副議長（高橋駿介君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長にかわり、副議長において議長の職務を行います。桜が丘中学校、高橋駿介です。よろしくをお願いします。

一般質問を継続します。

4番 原野谷中学校の一般質問

○副議長（高橋駿介君） 4番、原野谷中学校の発言を許します。齋木君、石川さん、御登壇ください。

〔4番 齋木大地君、石川鈴菜君 登壇〕

○4番（齋木大地君、石川鈴菜君） 4番、原野谷中学校、齋木大地、石川鈴菜。

通告に従って、一般質問を始めます。

○4番（齋木大地君） 1つ目の質問です。

原野谷中学校の校舎建てかえについてです。

本校では、毎日、無言清掃を行っています。清掃中はほとんど声を発することなく、全校生徒が任された分担場所をよりきれいにしようと取り組んでいます。また、長期休業中には環境委員が中心となり、教室や特別教室のワックス塗りも実施しています。しかし、大雨の後などは雨漏りがして、バケツや雑巾をその場所に置いておく状況です。

本校の校舎は昭和36年に建てられ、掛川市内で一番古いと聞きました。また、老朽化度も76.5%と高くなっています。お金の問題が大きいとは思いますが、いつごろ建てかえをしてくださるのかをお聞きしたいと思います。

○4番（石川鈴菜君） 2つ目の質問は小・中一貫教育についてです。

本校では今年度より小・中一貫教育の指定を受けました。本校は116名の生徒数で小さな学校です。小学生も一緒の場所にいることはお互いに活動の様子などもわかるという利点があると思います。また、人数もふえて、今まで以上に活気が出てくるようにも思います。そして、世間で言われている中1ギャップも少なくなるのではないかと考えます。

将来的には、私たちの中学校の場所に小・中の校舎が建てられ、一緒に学ぶということになるのでしょうか。それはいつごろと考えているのかをお聞きしたいと思います。

以上で終わります。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 齋木議員の御質問にお答えをいたします。

原野谷中学校の校舎建てかえ、いつごろ建てかえてくれるのかということでもありますけれども、大変申しわけないですけれども、いつという明言が現時点ではできませんので、大変申しわけなく思っております。

原野谷中学校の校舎は齋木議員御指摘のとおり昭和36年に建設され、56年が経過をしております。市内の小・中学校の中では最も古い施設であり、雨漏りなど老朽化による問題で大変御迷惑をおかけしております。

しかし、皆さんの先輩や在校生が日ごろから学校を大変丁寧に掃除をし、歴史ある原野谷中学校

の校舎を大切に使用していることは大変すばらしいことだと感じております。

校舎のほうの建てかえについては後の御質問にもあります小・中一貫教育と大変深いかわりがあります。現在、原野谷中学校区では、小・中一貫教育について学校での研究が始まっています。また、今後、学校や保護者、地域の皆さんと検討会が行われます。この研究検討の結果により、校舎建築の計画を立てていくこととなります。したがって、しばらくの間は現在の校舎を使用させていただきたいというふうに思いますので、掃除のほうもよろしく願いをいたします。

雨漏り等修繕については、これは速やかに実施をしていかなければいけないというふうに思っておりますので、よろしく願いをいたします。

私のほうからは以上であります。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

笹本教育部長。

〔教育部長 笹本厚君 登壇〕

○教育部長（笹本厚君） 私からは質問項目 2つ目の小・中一貫教育についてお答えいたします。

掛川市では小学校や中学校に通っている皆さんや将来学校に通うこととなる子供たちがこれまで以上に勉強や運動、そしてさまざまな体験をし、安心して学校生活を送ることを願っております。

そこで、これまで進めてきた地域の皆さんの力をおかりしながら、地域ぐるみで子供を育てる仕組みである中学校区学園化構想を基本にして、中学校区の子供たちがどんな人になってほしいかを考えております。

そして、小学校 1年生から中学校 3年生までの学習や行事などの計画を小学校と中学校が一緒につくり、実施する小・中一貫教育の研究を原野谷中学校区と城東中学校区でことしから進めております。あわせて、小・中一貫教育に適した学校のあり方を中学校区内の学校や保護者、地域の皆さんと一緒に考えていきます。

そして、関係するみんなでよく考えた結果、小・中学校の校舎を一つにしたほうがよいという結論が出た場合には、御質問にあるとおり小・中学生の皆さんが同じ校舎で学ぶこととなりますが、その校舎を新しく建てるためには場所の選定や校舎の設計などしっかりとした計画が必要となります。ですから、いつごろ校舎が建てられるかについては必要に応じてこれから決めていくこととなります。

以上です。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

4番、原野谷中学校。

○4番（齋木大地君） 1つ目の質問について質問です。

原野谷中学校の校舎では雨漏りのほかにも床板が腐っているところがあり、そのようなところの老朽化対策として修繕していただけないでしょうか。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） そういふところのチェック、あるいは指導等は教育委員会がしっかりやっているものというふうに市長として思っていました、そうではないということがわかりましたので、改めて教育委員会のほうが掛川市内の小・中学校これについて再度しっかりしたチェックをし、修理するべきところは修理をしていくとそういう方向で進めるよう教育委員会にしっかり伝えたいと。あわせて今御指摘のありました床が調子がよくないということでもありますので、それらについても雨漏り同様大至急検査をして、直すべきは直していくという方向で市長としては考えております。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

笹本教育部長。

○教育部長（笹本厚君） 雨漏りにつきましては以前から対策のほうをしております、工事はしていたんですが、なかなか雨漏り箇所が見つからないということで御迷惑をおかけしております。現在についても補修工事をしているというふうに聞いております。ですので、もうしばらくお待ちいただきたいと思っております。

床板のほうにつきましては聞いておりませんでしたので、至急確認したいというふうに思います。以上です。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

4番、原野谷中学校。

○4番（石川鈴菜君） 2つ目の質問についてです。

小・中一貫教育をする上でのデメリットが固定的な人間関係などが9年間そのまま続く可能性があることだそうです。この問題をどう改善していこうと考えているのか、お聞きしたいと思います。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

笹本教育部長。

○教育部長（笹本厚君） 固定的な人間関係につきましては、小・中一貫教育を行う場合でも行わない少人数の学校においても起こり得ることだというふうに思っております。

小・中一貫教育を行いまして、ある程度の人数が集まった中でクラスがえ等が対応な生徒数がそろふような学校が理想ではないかというふうな形で考えております。

以上です。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

4番、原野谷中学校。

○4番（石川鈴菜君） 同じく2つ目の質問についてなんですけれども、本校は学校から自宅まで2キロメートル以上ある生徒は自転車通学をしています。

小・中一貫教育になったとき、学校から自宅まで2キロメートル以上ある小学生も自転車通学になるのかお聞きしたいのですが、もし自転車通学になるのなら、小学1年生の自転車通学は危険だと思います。自転車通学にならないのなら小学校から自宅まで遠かった児童はさらに遠くなってしまい、学校に通うのが大変になってしまいます。これについてどう考えるかお聞きしたいと思います。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

笹本教育部長。

○教育部長（笹本厚君） 学校が遠くなってしまった場合に、通学距離が長くなって大変だとか危険だとかいうことは本当に充分考えられることでもあります。小・中一貫教育を行う場合にはこの点についても十分議論が必要となりますが、通学バスとかの導入というのは当然必要であるというふうに考えております。

以上です。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

4番、原野谷中学校。

○4番（齋木大地君） 再質問はありません。政治や市の仕事に関心を持つことができました。

○4番（石川鈴菜君） 再質問はありません。ぜひ実行してください。

○副議長（高橋駿介君） 以上で、4番、原野谷中学校の質問は終わりました。

5番 西中学校の一般質問

○副議長（高橋駿介君） 続いて、5番、西中学校の発言を許します。大長さん、小出君、御登壇ください。

〔5番 小出翔大君、大長みなみ君 登壇〕

○5番（小出翔大君、大長みなみ君） 5番、西中学校、小出翔大、大長みなみ。

通告に従って、一般質問を始めます。

○5番（大長みなみ君） 今から 3つの質問をします。

1つ目の質問です。

私たちの通う中学校では、給食の食器に陶器が使われています。安全性や割れたときの処理、費用などを考えるとプラスチックの食器のほうがよいのではないかと考えました。なぜ掛川市の中学校は陶器を使うのかについて考えを伺います。

○5番（小出翔大君） 2つ目の質問です。

市の観光客増加を目指して、最近大河ドラマの影響で観光客が増加している掛川市ですが、さらに観光客を増加させるために我々中学生の市民の力をどのように使うか、また、どの場所をどのように活用するかを伺いたいです。

3つ目の質問です。選挙投票率についてです。

2016年から18歳以上の選挙権が認められました。私たち中学生ももうすぐ選挙に参加できるということで楽しみにしている人や興味を持っている人も多いです。ですが、選挙の投票率はなかなか上がっていません。市はこの現状に対してどのような対策を今後とっていくか、伺いたいです。

以上で、1回目の質問を終わります。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 質問項目の 1つ目については教育委員会からお答えをします。

初めに、質問項目 2の観光客を増加させるための中学生の力、場所の活用方法ということですが、掛川市では、昨年から大河ドラマ井伊直虎ゆかりの地としてPRに努めています。それから、観光振興をしっかりと果たしていくという意味から今年度、観光交流課という新たな観光専門部署を新設をいたしました。それから、掛川市には大変多くの観光施設がありますし、いろんなイベント取り組みなどもしております。

平成28年度には約 370万人もの観光客が掛川市に訪れてくれました。「市内観光をしていたら元気に挨拶してくれた、また来たくなりました」という声もお聞きをしました。皆さんの元気な挨拶が掛川市のPRにつながっていくものと思います。

特に西中学校の生徒さんだということでもありますので、松ヶ岡とかあるいは十九首塚とかいろんな観光ポイントがありますので、観光資源について改めて中学生の立場として勉強していただいて、それらの観光案内を中学生みずから買って出てやっていただければ、大変うれしいというふうに思います。

2019年のラグビーのワールドカップもエコパが開催会場でありますので、多くの観光客含めて選手団も来るわけであります。大体外国の5チームが来るというふうに思いますので、今まだ職員と教育委員会等に話をしておりませんが、小・中学校掛川市は小学校が22校、それから中学校が9校ありますので、それを5つのブロックに分けてそれぞれの外国のチームを応援、もてなすというような取り組みもぜひこれから進めていきたいというふうに思っておりますので、皆様方の後輩になるとは思いますけれども、そうした人たちが積極的に観光振興に従事していただくというようなことをぜひお話をしたいと同時に、外国の方英語はほとんど通じるところということでありますので、英語でもてなしについてももしっかりお願いしたい。いずれにしても、皆さんの力を生かせるようなことをこれから市行政のほうに積極的に御提言をいただければ大変うれしいというふうに思います。

それから、2つ目の選挙の投票率の向上でありますけれども、掛川市にはかけがわ白バラ会という市民団体があって、正しい選挙といいますか、それと投票率の向上のためにいろんな活動に取り組んでいただいております。年に一度広報紙を発行して、18歳を迎える新しい有権者にバースデーカードをお送りして、選挙のない時期でも選挙のPRを行ってもらっています。

いずれにしろ、選挙に対する高校生、18歳それに到達するまでの小学生高学年から中学生、あるいは高校生に関心を高めてもらうような取り組みが大変必要だというふうに思っております。

最近行われた選挙の投票率は4月の市長選挙、それから市議会議員選挙64.54%でした。6月の静岡県の県知事選挙が52.34%で、いずれも4年前に実施した選挙のときよりも投票率が下がっております。これは18歳から選挙権ができたということで必然的に下がりますけれども、下がっております。

これから上がっていくような取り組みが必要だと、若い世代の皆さんの選挙に関心を高めるためにフェイスブックによる情報発信をよりわかりやすく工夫するなどして投票率の向上を目指していきたいと考えています。

以上であります。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

笹本教育部長。

〔教育部長 笹本厚君 登壇〕

○教育部長（笹本厚君） 私からは質問項目1つ目のなぜ掛川市の中学校は陶器を使うかについてお答えいたします。

掛川区域の中学校給食を調理している給食文化苑こやうの丘は建設に先立ち、使用する食器について検討が行われました。焼き物の食器は割れることがあります、ふだん家庭で使われている

食器と同じ材質でなじみがある、傷が付きにくい、食べた感じ、さわった感じがよいといったことが評価され、割れにくい加工が施された強化磁器食器が採用されました。

掛川市では、焼き物のよさや丁寧に扱わないと割れてしまうという特性を通して、食文化や物の大切さを知ってもらいたいと考え、給食文化苑こようの丘で使用する食器については強化磁器を使用しております。

なお、割れてしまった食器は焼き物のリサイクルを行っている専門業者により新たなエコ食器にリサイクルされております。

以上です。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

5番、西中学校。

○5番（大長みなみ君） 先ほど家庭と同様でなじみがあるとおっしゃいましたが、それなら中学校だけではなく、小学校でもできると思います。それについて考えを伺いたいです。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

笹本教育部長。

○教育部長（笹本厚君） 学校給食の場合、大量の食器を運ぶという作業が入ってきますので、小学生でそういった重い食器を運ぶというのが多少無理があるのではないかとということで、小学校では採用しておりません。

また、小学校のほうが扱い方が多少丁寧にできないとかいうようなこともありますので、そういった関係もあるというふうに聞いております。

以上です。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

5番、西中学校。

○5番（小出翔大君） 3つ目の質問について再質問です。

先ほど言っていたようにフェイスブックなどのSNSを使った投票率を上げる工夫だけでなく、SNS以外にも掛川市のホームページなどでそういうまとめをつくってみたりだとか、そういう工夫もしてみたらより関心が深まるのかなと思います。

あと、中学生のうちからも選挙について理解が深まるよう授業などでそういう選挙についてもっと詳しくやるような工夫も入れたらどうかなと思います。それについて考えを伺いたいです。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） いろんな手法、手段を使って投票率の向上、あるいは選挙に関心を持ってもらう取り組みは、これは国を挙げて基礎自治体だけでなく、進めてきておりますが、なかなか投票率が上がらないということでもありますので、さらなる努力も必要だというふうに思います。

それから、中学生等の関心をいろいろ高めていく、18歳よりもっと下の人たちがこの選挙について関心を高めるいろんな工夫も必要だと。ですから、選挙活動等にどういう形で中学生、あるいは高校生にかかわりを持ってもらうかという工夫を改めてしっかりしていかなければいけない。

今、期日前投票というようなところで高校生の協力もいただいておりますが、そういう意味ではいろんな協力をいただくような工夫、それから期日前投票含めてやっぱり投票する場所が皆さんが高校生、18歳になった社員が通われるようなそういう駅の周辺にあるとか、あるいは買い物をするところに置くとかというようなことも今後検討をしなければいけない課題ではあるというふうに思っておりますが、いずれにしろ、自分たちの権利を行使するところということでもあります、選挙は。そういうことでもありますので、しっかりした権利主義を高めていく、関心を持っていただくということは学校教育の中でもしっかり進めなければいけない課題であるというふうに思っておりますので、教育委員会ともいろいろ協議しながらしっかり進めていきたい。少なくとも皆さんが選挙権があったら必ず選挙に行くということをお願いして私の答弁とします。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

5番、西中学校。

○5番（大長みなみ君） 再質問はありません。大変勉強になりました。

○5番（小出翔大君） 再質問はありません。大変勉強になりました。ありがとうございました。

○副議長（高橋駿介君） 以上で、5番、西中学校の質問は終わりました。

6番 大須賀中学校の一般質問

○副議長（高橋駿介君） 続いて、6番、大須賀中学校の発言を許します。浦山君、太田さん、御登壇ください。

〔6番 浦山拓実君、太田絢寧君 登壇〕

○6番（浦山拓実君、太田絢寧君） 6番、大須賀中学校、浦山拓実、太田絢寧。

通告に従って、一般質問を始めます。

○6番（浦山拓実君） 質問項目は地域の活性化についてです。

現在、横須賀では高齢化が問題になっています。これまで地域の伝統を引き継いでくれた年配の方々が住みやすく、かつ伝統である祭りなどを後世に伝えていくために掛川市ではどのような対策をしていくか、同様の課題を抱えているほかの地域も含めた市全体への取り組みについて伺い

ます。

1つ目の質問です。

横須賀なら祭りやちっちゃな文化展などの観光資源があり、また、掛川市内のほかの地域でもいろんな観光資源があるが、それらの魅力をどう発信しているのか、伺います。

2つ目の質問です。

大須賀地区から掛川駅への直通バスが出ているが、高校生専用となっています。子供からお年寄りの方まで誰でも利用できるバスにすれば利用者がふえると思うが、どのように考えているか、伺います。

○6番（太田絢寧君） 3つ目の質問です。生活困窮、ひきこもり、認知症など新たな福祉課題の対応はどのように考えているのか伺います。

以上で終わります。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 浦山さんと太田さんの質問にお答えをいたします。

高齢化社会の進展に伴って地域の活性化が大分十分でなくなったとこういう中での御質問であります。初めに、観光資源これらの魅力をどう発信をしているかということですが、大須賀、横須賀のことについて申し上げますと、江戸時代から歴史のある横須賀の三熊野神社大祭、これは大体 3万人、それからちっちゃな文化展が 3日間で 3万 2,000人の観光客が県内外から横須賀地区に集まるという大変貴重な観光資源であります。

観光客が掛川市の観光情報を知る方法としては、観光パンフレット、それからホームページ、新聞、雑誌などがありますが、最近ではSNS、ソーシャル・ネットワーク・サービスを活用した情報発信にも心がけており、フェイスブックの公式アカウント「掛川観光ホットニュース」はフォロワー、観光ホットニュースを見ることができる情報が届くように登録をしてくれている方が 2,500人を超えています。また、最近、観光公式インスタグラムも始め、若い世代にもすぐに情報発信できるようにしております。

まちのSNSだけでなく、幅広い世代の方に対応できるよう掛川駅、それからプラザ大須賀観光協会の案内所を設置して、来客や電話、メールなどの問い合わせにも対応をして、それから、掛川市の情報を世界に発信してもらうということで掛川ゆかりの著名人の方々に輝くかけがわ応援大使になっていただいて、国内外に掛川の魅力を発信をしていただく取り組みを行っております。

従来の掛川市の産業政策といいますか、産業振興といいますのは、ある意味では 1次産業の農業、それからものづくり、製造業が大変盛んな地域でありました。なかなか第 3次産業が十分ではなかったわけですが、やはりここに来て、観光産業の振興がこれが一番これからの掛川市が持続発展できるまちになるためには必要だという意味で、御質問の観光資源の魅力をさらに積極的に発信していきたいというふうに思っております。

それから、さっき三熊野神社の大祭の話がありましたけれども、現在この三熊野神社のお祭りを国の重要無形文化財に指定されるようなそういう今働きかけを進めております。いずれにしろ、いい観光資源については積極的に国内外に発信していきたいところ思っております。

それから、2つ目の直通バスの関係です。

私も全く同感であります。高校生だけに限らず、高齢者の方も若い方もいろんな方が大須賀から掛川駅の直通バスに乗れるような形を早急にとる必要があるということで、いろいろ働きかけをしておりますが、なかなかバスの事業者とかあるいはタクシー事業者とかいろいろ関係があつてすぐに全部の方に乗っていただくということが今のところできておりませんので、少し実証的に検証をして、それらを踏まえた上で改めてたくさんの人が乗れるようなそういう対策を今とっているところであります。

それから、3つ目の生活困窮、それからひきこもり、認知症など新たな課題についての対応でありますけれども、大変重要な課題だというふうに考えております。

掛川市では、生活困窮となったり、あるいはひきこもり、認知症以外にも介護、それから生活相談等の心配事があるときに相談できる市内の 5つのふくしあという施設があります。大須賀では大須賀支所の中に南部大須賀ふくしあがあるわけでありましてけれども、このふくしあに保健師、社会福祉士、ケアマネジャー、それから看護師の専門職員がいて、4つの異なる職種が 1つのフロアで連携しながら本人や家族の状況に応じてその人にとって一番いい支援、サービスの提供に努めているということでもあります。

生活困窮の方には家庭のお金の相談とか、仕事につくための支援とか、無利子での貸し付け等相談者にあわせたアドバイスをしております。

ひきこもりについては心が健康でない方が多く、専門に相談できる場所をお願いをしているほか、仕事につけない悩みを抱えている若者を支援する地域若者サポートステーションかけがわ、これを紹介したり、不登校の児童・生徒には掛川市教育センターみどり教室が相談や勉強の場となっております。

認知症についてもこれから平均寿命がどんどん延びると、この認知症の人たちがどんどんふえて

くる心配があります。そういう意味では認知症を早期に発見する知識や予防等を掲載したいろんな情報冊子「認知症ケアパス」などというものを全家庭に配布をして、注意喚起に当たっているところでもあります。

いずれにしろ、何かやれば全て解決をするというものではありませんが、地に足のついたしっかりした対応を進めていきたいと考えております。

以上であります。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

6番、大須賀中学校。

○6番（浦山拓実君） 先ほど市長がSNSで情報を発信していくと言っていたんですけども、SNSはこれから情報を広げていくために大切な手段だと思います。ですが、SNSは多くの人に情報が伝わることや若い人たちにも知ってもらえるというよい点がありますが、年配の方々は利用している人が少なく、うまく活用できていない方もいると思います。年配の方々にもSNSを多くうまく利用してもらうために考えていることはありますか。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 高齢者の皆さんにIT関連の機器を使って積極的に情報収集をしていただくというのはなかなか難しい状況にあります。一番行政として高齢者の皆さんにも情報がしっかり伝わるという意味では、災害時、高齢者の方はテレビを見るということについては抵抗がないわけでありますので、テレビでいろんな災害の情報を、掛川市の局地的な情報を流すようなそういう工夫も掛川市として取り組んでいます。いずれにしろ、高齢者がしっかり情報をキャッチできるような手法とそういう方向に取り組んでいただけるような何かいい知恵があったら、ぜひ教えていただきたいというふうに思います。

これからはどんどん若い人はインターネット、タブレット、いろんなものを駆使して情報をキャッチしていきますが、後期高齢者の方に改めてそういう対応をとるというのはなかなか難しいことではありますが、活字で見る、そういうことについては高齢者もまだ取り組みに対して抵抗感がないわけでありますので、高齢者の皆さんには、ある意味では活字のような媒体を使ってしっかり情報が届くようにさらに努めていきたいとこう思っております。若い人はどんどんいろんな情報をみずから取りにいくとこういうことが重要だと思っております。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

6番、大須賀中学校。

○6番（太田絢寧君） 3つ目の質問についてで、新たな福祉課題であるひきこもりは小・中学校のときの不登校が背景にあり、大人になってひきこもりになる人も多いと思います。だから、そういった人が少しでも外に出られるような施設やサポートできる先生をもっとふやしたほうがいいと思いますが、どうですか。

○副議長（高橋駿介君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） おっしゃるとおりだと思います。可能な限り引きこもっている方、あるいは小さいときに不登校になった子供さんが大きくなってからそういう後遺症が継続しないようなそういう情報発信、それから指導者がどんどんふえていく、先ほど申し上げましたけれども、そういう役割を1つはふくしあや企業が担ってくれているということと、もう一つはこれも申し上げましたように、若い方たちが就業につけないというような方においては地域若者サポートステーションかけがわのようなものを紹介をして、できるだけいろんな方と接触をするというような工夫が必要だというふうに思っております。小学生、中学生でも何%かは常に不登校の子供たちもいますので、いろんな形で子供のときからそういうことが大人にまで引っ張らないようなそういう対応をしっかりとしていかなければいけない。そういう意味では教育相談も行われていますし、児童相談所の児童福祉士もそういうしっかりした対応をしていますので、より広い人たちがそういう方のために積極的に取り組めるような環境整備、これについては改めてきょうお話を伺いましたので、少し整理をして進めていきたいこう思っています。

○副議長（高橋駿介君） 再質問ありますか。

6番、大須賀中学校。

○6番（浦山拓実君） 再質問はありません。大変勉強になりました。

○6番（太田絢寧君） 再質問はありません。大変勉強になりました。

○副議長（高橋駿介君） 以上で、6番、大須賀中学校の質問は終わりました。

この際、しばらく休憩とします。

午後3時28分 休憩

午後3時40分 開議

○議長（齋木大地君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を継続します。

7番 桜が丘中学校の一般質問

○議長（齋木大地君） 7番、桜が丘中学校の発言を許します。高橋君、土屋さん、御登壇くださ

い。

〔7番 高橋駿介君、土屋日南子君 登壇〕

○7番（高橋駿介君、土屋日南子君） 7番、桜が丘中学校、高橋駿介、土屋日南子。

通告に従って、一般質問を始めます。

○7番（土屋日南子君） 2つ質問をします。

1つ目は、安全で安心して学習できる学習環境づくりについてです。

私たちは毎日一生懸命勉強をしていますが、夏の暑い日はどうしようもないほど暑く、勉強に集中できません。そこで窓をあけるのですが、風が強くてプリントが飛んだり、蜂などの危険な虫が入ってきたり勉強に集中できなくなってしまいます。

安心して学習できる対策について考えを伺います。学校の教室に空調を整備してもらえないか、伺います。

○7番（高橋駿介君） 2つ目の質問です。

学校に通う道路は信号機や横断歩道が整備されるなど改善されてきていますが、再来年度には車椅子で登校する生徒の入学も予定されています。そのため、まだまだ安心して学校に通える環境とは言い切れません。

そこで、私たちが毎日安心して通学できるような取り組みについて市長の考えを伺います。安心して登下校できる道路の整備を進めてもらえないでしょうか。特に桜が丘中学校の前の道路は登下校の際、多くの生徒が通り、また、保護者や先生の自動車も通りますが、道の幅が狭く危険です。道幅を広くする等対策はしていただけないか、市長にお伺いします。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 高橋さん、それから土屋さんの質問にお答えをいたします。

質問項目1については、後ほど教育委員会からお答えをいたします。

質問項目の2の安心して登下校できる道路整備についてであります。再来年度に車椅子で登校される生徒の入学が予定されているということでもあります。和田岡小学校に入学をされるというお話を聞いたときに、通う歩道の整備と学校へのエレベーターの設置をさせていただきました。障がいのある方がエレベーターの完備とかいろんなそういう方に対応できる拠点校というのがつくられているわけですがけれども、どうしても地元の和田岡小学校に通われないという強い要望があつて、

そのような対応をさせていただきましたが、再来年度、多分私が思っている子供のことだというふうに思いますけれども、そういう意味では、安心して学校に通える環境をしっかりと整備しなければいけないと改めて今御質問をお聞きして思ったところであります。

現在、掛川市では校舎の安全確保を目的に市道 9路線の歩道整備を計画的に進めております。これは全国的に登下校中の交通事故が多発をしたことを受けて、平成24年、平成26年度に実施した通学路の緊急点検結果に基づき通学路を中心とした歩道設置や道路拡幅を進めるものであります。

桜が丘中学校周辺は住宅密集地で東西を結ぶ通学路が狭く、御心配をおかけしているということですが、市内には通学路で歩行空間が未整備なところや交通安全対策が必要な道路がまだ多く残っている状況でありますので、今後も生徒の通行の安全を確保するために歩道や路側帯のグリーンベルト化等の設置を検討していくとともに、通学路の歩道整備等を計画的に推進してまいりたいと思っております。

すぐの話ではありませんが、先ほども小・中一貫教育の統合型の施設のときにスクールバスの確保というお話がありました。ほとんどの外国の小・中学校に通うその手段はスクールバスを使っています。そういう意味では、そういうことに対する検討もこれからやっぱり進めていく必要があるのではないかなというふうに思っております。遠いところから通う、あるいは大変交通が車両が頻繁に行き交うようなところを避けるという意味からも、そういうこともしっかり検討をしていかなければいけないというふうに思っております。

私は以上であります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

笹本教育部長。

〔教育部長 笹本厚君 登壇〕

○教育部長（笹本厚君） 私からは最初の質問項目の学校への空調整備についてお答えします。

現状では整備する方針はありませんが、できるだけ皆さんが快適に過ごせるよう工夫をしております。夏場の暑さ対策としては、これまでは教室に扇風機を設置したり、昇降口の近くにミストをつけたりしました。また、特に空調が必要な部屋として図書室やパソコン室、保健室などはエアコンを設置しております。

冬場につきましては、掛川市は全国的に見ると非常に温暖な地域であり、特段な設備は設けておりませんが、各教室が南向きになるよう設置し、暖かさを得られるよう工夫をしております。

以上です。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

7番、桜が丘中学校。

○7番（土屋日南子君） 1つ目の質問についてです。

空調を整備できない場合、せめて虫が入ることを防ぐ網戸を整備していただきたいです。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

笹本教育部長。

○教育部長（笹本厚君） エアコンを設置できない場合、網戸の設置というお話ですが、これにつきましては、学校からいろんな御要望等がありますので、その中の一つの要望ということで優先順位をつけていただいて、そういった中で工事費等で対応を検討していけるかなというふうに思いますので、学校と教育委員会で一度話し合いをしていただきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

7番、桜が丘中学校。

○7番（土屋日南子君） 再質問はありません。大変勉強になりました。

○7番（高橋駿介君） 再質問はありません。ぜひ対策をお願いします。

○議長（齋木大地君） 松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 空調の問題については教育委員会がお答えをしましたが、吉田町において空調を全校設置するというところでありますが、一方で、なぜ設置するかというと、夏休み期間を非常に短縮するとういうことがあって空調を整備するとういうことの結論になったようですけども、それぞれの家庭で空調設備が完備されてきているという状況を見ますと、今御質問、御要望があったことについてももしっかり検討を進めていく時期にあるのかなという感じもいたします。

ただ、掛川市は先ほども申し上げましたけれども、中学校が9校、小学校が22校という大変たくさんさんの小・中学校、学校施設があるわけでありますので、そういう中でどういうふうな形でそれらを進めていくかということもしっかり踏まえなければいけないというふうに思っております。繰り返になりますけれども、昔のように夏は暑いのが当たり前だということでは、ある意味では通らない時代になってきているのかなというふうに思いますので、教育委員会、学校のほうも予算の優先順位をつけながらどれを先に進めていくのがいいのかということも、これは保護者の皆さんともしっかり教育委員会、学校で協議をしていただきたいとうう思っております。

以上であります。

○議長（齋木大地君） 以上で、7番、桜が丘中学校の質問は終わりました。

8番 大浜中学校の一般質問

○議長（齋木大地君） 続いて、8番、大浜中学校の発言を許します。中村さん、大石君、御登壇ください。

〔8番 大石清地君、中村日和君 登壇〕

○8番（大石清地君、中村日和君） 8番、大浜中学校、大石清地、中村日和。

通告に従って、一般質問を始めます。

○8番（大石清地君） 人口減少と地震、津波について伺います。

国立社会保障・人口問題研究所が発表した掛川市の将来推計人口によると、掛川市は今後人口減少と少子高齢化の一途をたどることが予測されています。このような状況で市長の今後の人口問題に対する長期的な展望を伺いたいと思います。

3つ質問をします。

1つ目です。

2040年の将来人口目標を12万人に設定していますが、その年齢構成はどのようになっていますか。

○8番（中村日和君） 2つ目の質問です。

「教育・文化」「健康・子育て」「環境」の3つを戦略目標に掲げ、人口の転入超過を期待していますが、具体的にどのような状態になれば日本一と言えるのか、根拠を伺いたいです。

3つ目の質問です。

転出の一因として大地震発生時の津波被害が予想されていることが考えられ、市は津波発生時における津波避難施設の使用に関する協定などを進めているようですが、現状として津波避難施設は充足しているのでしょうか。

以上で終わります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 大石さん、それから中村さんの質問にお答えをいたします。

人口減少と地震、津波についてということであります。

国立社会保障・人口問題研究所が発表した人口推計と同時に、この研究所は3年ほど前に消滅自治体というのを発表しました。日本の中に基礎自治体が大体、市町村が1,700近くあるわけですが、そのうちの半分が将来消滅するだろうという大変センセーショナルな発表をしました。そこが人口のこれからの推移についても発表したわけでありまして、基礎自治体の半分がなくなってしまうというような状況が起こらないような政策を基礎自治体はしっかり考えて取り組んで

いけとこういうことでもあるというふうに思っておりますが、人口についてはなかなか大変難しい問題があります。

最初の将来人口目標の年齢構成についてであります。掛川市では2040年の人口目標12万人の内訳を申し上げますとゼロ歳から14歳の若者が1万9,700人で16.4%、それから15歳から64歳の大人が6万5,700人で54.7%、65歳以上のお年寄りが3万4,600人で28.9%を目標としています。ちなみに現在の高齢化率は25%ちょっと超えているところであります。

そして、国の研究機関、今お話のあった人口問題研究所によりますと、2040年の掛川市の人口が私どもは12万人というふうな目標を立てましたが、12万人を切っている9万5,594人まで減少するということでもあります。そして、65歳以上のお年寄りの割合が、高齢化率です、37.1%まで上昇するという推計をしておりますので、こんなことにならないようしっかりした対策を進めなければいけない。

どなたかの質問でもお答えしましたが、現在のところ掛川市は人口がふえてきております。大変生活環境、交通の利便性、あるいはいろんな形の対策がそれなりに進んできているのではないかなというふうに思っております。ちなみに、これは先月の1カ月の人口増の35の静岡県の自治体の中でふえているのが東部からいきますと長泉町、それから清水町、それからこちらに来て菊川市、掛川市、それから袋井市、この5つの自治体が人口がふえている。それは先々月の話ですけれども、先月7月の数値をきょうもらいましたけれども、やはり五十数人ふえているということでもあります。

そういう意味では、いろんな政策を推進するという中で2040年の人口目標を12万人にしましたけれども、私は人口移動、あるいは人口がふえるふえないは出生率の問題だけでなく、人口移動が必ずある、今は東京にずっと人口が移動していますけれども、そう長くない将来にやっぱり東京にそれだけの人たちが住むような環境が保てないのではないかなというふうに思いますので、そうしたときに一番住みやすい、住みよいそういうところに人口が集積していくと、その集積する一番全国ですばらしい自治体が掛川市だというふうになるように皆さんと一緒に努力をしていきたいと思っています。

それから、3つの日本一の戦略目標、具体的にどういう状況になれば日本一と言えるのか、この質問は議員さんから年々2回ぐらいは質問いただきます。

私自身は、1つは3つの日本一というのは、ある意味ではスローガンのような捉え方もしています。みんなでそういう日本一になるように努力していこうと、こういうスローガンのようなことも一つにはあるということを前段で申し上げた上でお答えをします。

掛川市のまちづくりの根幹にかかわる部分に興味を持っていただく大変すばらしく思います。

1つ目の「教育・文化」については、掛川市民全員が協力して子供たちの教育に取り組んだり、掛川のことを自慢に思う市民がどこよりも多ければ日本一と言えると考えます。そのため、園や学校にかかわっていただくボランティアの数やふるさとの歴史や文化に愛着を持つ市民の割合が成果を測る基準としています。

それから、私個人的には全国一斉の学力テストでこれは学校の先生は余り言いたくないようですが、掛川市は大変すばらしい成績、全国的に位置にあるということも聞いておりますので、そういうことも教育・文化日本一の基準の一つにはなり得るだろうというふうに思っております。

それから、2つ目の「健康・子育て」はお達者なお年寄りや掛川で子育てをしたい、してよかったと思ってくれる市民がどこよりも多ければ日本一と言えると考えます。そのために65歳以上で元気な市民の人数や子供の生まれた数を成果を測る基準としていますということであります。

3つ目の「環境」は自然環境や生活環境、町並みなどがバランスよく整い、掛川が住み心地のよいまちだという市民がどこよりも多ければ日本一と言えると考えます。そのために掛川市に転入してくる人の数や、今後の掛川市に住み続けたいと思う市民の割合が成果を測る基準というふうに思います。

3つの日本一を達成するためには市役所の力だけでは足りません。皆さんのような若い方の協力が不可欠であります。将来も住み続けたい掛川市になるために自分たちにできることは何だろう、そのようなこともぜひお考えをいただきたいというふうに思います。

それから、3つ目の掛川市の津波避難施設についてであります。津波からの避難は浸水域外への避難が原則であります。避難が間に合わない場合に津波避難タワーなどを活用して命を守ります。

掛川市には津波避難タワーや命山、民間の建物などを利用した津波避難施設があります。平成27年度に実施した避難シミュレーションでは、津波避難施設を有効に活用すれば、全ての市民が津波が到達するまでに避難ができるという結果が出されています。さらに安全性を高めるため、海岸にある防災林を強化して内陸部への浸水を防ぐ掛川潮騒の森の整備を市民、企業、行政が協働して進めているところであります。

私からは以上であります。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

8番、大浜中学校。

○8番（大石清地君） 少子高齢化が進んでいる今、バランスのよい年齢構成を目指すためには、やはり子供の人口の増加が必要となってくると思います。そのために子供の人口をふやすために具

体的な策などはお考えでしょうか。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 子供の人口をふやすということは若いお父さん、お母さんがこの掛川にたくさん住んでもらうということが条件の大きな一つだというふうに思っております。そのために掛川市はお父さん、お母さんが働く場の確保、これは企業誘致も含めてそれに最大限の力を入れてきております。

あわせて子育て支援に力を入れ、この2年間待機児童ゼロということで保育施設の整備等々を進め、一昨年、去年で定数を600人ほどふやしましたが、先ほど来言っていますように外から掛川市にはどんどん若い人も入ってきておりますので、なかなか子育て支援策が追いつかない嫌いもありますけれども、そういう子育て支援策をしっかりとやっていくということが若いお父さん、お母さんがこの掛川に来ていただける、あるいはここで住み続けていただける要因だというふうに思っておりますので、それ以外にもいろんなことありますけれども、少なくともその2つについてはしっかりと取り組んでいるところであります。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

8番、大浜中学校。

○8番（中村日和君） 3つ目の質問についての再質問です。

現状、津波避難施設は足りているかもしれませんが、将来の人口目標に達したときに今のままで足りるのでしょうか。そして、足りないのであれば新たに建設する予定はありますか。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 津波の被害想定が発表されました。その浸水域がハザードマップで全家庭にお配りをしておりますが、多分見ていただけていないかもしれません。それによりますと、今の状況であっても避難施設に避難をしていただければ、皆さんが命を守ることができるという状況にあります。ただ、さらに、やはりそうはいつでも大変心配だと言われる海岸の近くの皆さんがおりますので、先ほども申し上げましたが、マグニチュード8クラスの1000年に一度に来るか来ないかという南海トラフの大地震の津波に対応できるような防災林、防潮堤を今整備をしてきております。それは12メートルから8メートルぐらいの津波が想定されると、その津波高にあわせて海岸線の防潮堤を今整備をしていこうとこういうことでありますので、万万が一にも備えた対策をとってきておりますので、それが完成すればもう間違いなく大丈夫だと。

ただ、それにはちょっと時間がかかります。10年弱かかりますので、その間に物すごい大きなものが来るということであれば、今でも大丈夫だとは思いますが、避難だけは高いところに避難してもらうという家庭の避難計画をそれぞれの家庭でぜひつくっておいてもらいたい。そして、地域においては地域の皆さんが災害弱者であるお年寄りとか障がいのある方を一緒に避難していくような地域の避難計画、これもあわせてつくっていただきたいということで、行政側からお願いと同時に一緒になってつくっていきましょうという今作業を進めておりますので、安心だということではありますが、さらに安心度を高めるそういう避難の計画もしっかり皆さんでつくっておいていただきたいというふうに思います。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

8番、大浜中学校。

○8番（大石清地君） 再質問はありません。大変勉強になりました。

○8番（中村日和君） 再質問はありません。ぜひ検討をお願いします。

○議長（齋木大地君） 以上で、8番、大浜中学校の質問は終わりました。

9番 城東中学校の一般質問

○議長（齋木大地君） 続いて、9番、城東中学校の発言を許します。岡部さん、草間君、御登壇ください。

〔9番 草間一陽君、岡部彩乃君 登壇〕

○9番（草間一陽君、岡部彩乃君） 9番、城東中学校、草間一陽、岡部彩乃。

通告に従って、一般質問を始めます。

○9番（草間一陽君） 私たちの城東中学校は、中小学校、土方小学校、佐東小学校の3小学区から成り立っており、それぞれ小さな小学校ではありますが、卒業生は皆地域に誇りを持っています。

今後も私たち住民が誇れる地域であり続けるために私たちが考えた施策について、市長の考えを伺います。

1つ目の質問です。

大地震に見舞われる可能性が30年以上前から高いと言われ続けており、対策を進めることは重要であると考えますが、中、土方、佐東地区の防災対策や災害発生時の避難体制は万全でしょうか。

○9番（岡部彩乃君） 2つ目の質問です。

地域が活性化するには学校の存在は大きいですが、城東中は教員数が減り続け、部活動顧問が満身に確保できておらず、1人の教員が2つの部活動の顧問を受け持っています。改善が必要と考えますが、教育長の考えはいかがですか。

3つ目の質問です。

地域をよくしていくのは私たち若い世代にも責任があると考えており、18歳になったら積極的に選挙に若者を行かせる仕組みづくりが必要と考えますが、市長の考えはいかがでしょうか。

以上で終わります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

〔市長 松井三郎君 登壇〕

○市長（松井三郎君） 岡部さん、草間さんの質問にお答えをいたします。

私から1番目と3番目の御質問にお答えをし、2番目のものについては教育委員会からお答えをいたします。

まず、防災対策や災害発生時の避難体制は万全かということであります。

今これまでずっと地震のことが災害の大きな要因で、ただ、最近の全国的な被災の状況を見ると大雨が降る、ゲリラ豪雨がある、それによる土砂災害やあるいは河川の氾濫、あるいは掛川市にはため池がたくさんありますので、そういうことも大変心配をし、早急な対応が必要だというふうに思っております。

その中で防災対策や災害発生時の避難体制についてであります。中、土方、佐東地区等の自主防災会が災害時に地域防災のかなめとなるよう支援をしています。主には活動に必要な防災用の物資や材料を整備するための補助や訓練を企画するとともに、防災知識を習得していただく防災出前講座、それから地域で実践的に活躍できる防災リーダーの養成講座等を実施し、地域防災力の向上に努めております。

次に、中、土方、佐東地区に予想される災害についての避難体制であります。土砂・洪水災害が発生する地域がありますので、各家庭に配布されている「掛川市防災ガイドブック」を活用し、家が建っている場所や家族構成、災害の種類によって避難する場所やタイミングを家族で話し合い、家庭の避難計画の策定をお願いをしています。

中学生は災害時には地域防災の重要な担い手であると期待をしております。日ごろから家具の固定をするなど、けがをしない状況をつくっておいていただきたいというふうに思います。

それから、3つ目の若者を選挙に行かせる仕組みづくりについてであります。掛川市では平成27年度から市内の高校に出向いて選挙に関する出前授業や模擬投票を実施し、若い世代の皆様の選挙に対する関心が高まるよう啓発活動を行っています。また、選挙をより身近に感じてもらえるようフェイスブックを利用して情報発信を行うなど、若者の投票率向上を図るためにさまざまな取り

組みも行っています。

一方、このような行政が行う啓発活動と並んで大切なのは、次の世代を担う若い皆さんが主体になって、地域をよりよくするために取り組んでいただくことだというふうに思います。自分たちが住んでいる地域にはどのようなよさや課題があり、その課題を解決するためには何ができるのかという問題意識や関心を持っていただくことが大切だと考えます。また、地域の活動などにかかわり、身近な話題に触れることでいろいろなことに気がつくと思います。

有権者として投票に行くことはもちろん大切ですが、皆さんのような若い世代が積極的に地域活動に参加し、さまざまな思いを発信していくことも主権者として自分たちの意思、意見を市政や国政に反映していく有効な手段です。主体的にまちづくりに参加し、他の市民へも積極的に情報発信や働きかけをしていただきたいと思います。また、そうした取り組みが将来的に投票率の向上にもつながっていくのだと考えます。

それから、参政権や身近な地域の調査については社会科の公民の授業でも扱っていると思いますので、その機会にもよく学んでいただきたいと思いますというふうに思います。中学生のうちから自分たちの住んでいる地域の課題について、積極的に発信をしていただくということが将来の投票率の向上にもつながっていくというふうに思っておりますので、大変期待をしていますので、よろしくお願いします。

私からは以上であります。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

笹本教育部長。

〔教育部長 笹本厚君 登壇〕

○教育部長（笹本厚君） 私からは 2番目の部活動の顧問の確保についてお答えします。

城東中学校に限らず、市内の中学校では生徒数の減少に伴う教員数の減少により顧問が確保できず、複数の部が廃部、休部となったり、副顧問の先生がかけ持ちしていたりする状況があります。また、中学に希望する部活動がなく、生徒が民間のスイミングスクールで活躍するなどしている場合があります。

部活動は生徒の自主的、自発的な参加のもと、スポーツや文化などに親しみ、学習意欲を向上させ、責任感、連帯感を育てるなど重要な教育活動であると考えております。

教員数が確保できない場合には、専門的な技能を持っている地域在住の方や学校外の競技団体等に協力を仰いだりしながら、市内の中学生が部活動に熱心かつ安全に活動できるよう努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

9番、城東中学校。

○9番（草間一陽君） 1つ目の質問についてです。

城東中学校の西側には崖があり、災害発生時には崖崩れの可能性があると考えられています。また、先ほども言っていた防災ガイドブックの活動の呼びかけについて具体的な政策はどのようなものか、市長に伺います。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

市長、松井三郎君。

○市長（松井三郎君） 県道のところに切り割りがあるところということではありますが、そこが土砂災害の危険地域という話は……

〔「学校の校舎の西側のことです」との声あり〕

○市長（松井三郎君） 裏ですか。そこは安全ではないということですので、十分な対応を今検討しております。そういう面も含めていかに避難をするかということも大切でありますので、ただ、その崖崩れがあつて校舎がどんと潰れてしまうというような危険な状況にはないと、私も何回も確認に行っております。ただ、全く 100%安全だということではありませんので、ハードの対策ももちろんこれからしっかりとるようにしていきたいと。あわせて避難の計画も皆さんでつくっていただきたいというふうに思います。

具体的な家庭の問題の対策については、まず一番私がというよりも、掛川市、あるいは行政、市長が思っているのは、家の中の家具の固定、地震が来たときに家具が飛んできて、それでお亡くなりになるという方がこれは随分前の話ですけれども、阪神・淡路の大震災のときのほとんどの家庭で、そういうことによって今度は二次災害的に火災が発生するということですので、帰られたらお宅の家具が全て固定されているか確認をして、もしそうでなかったらすぐ取りつけていただきたい。これについては半額補助があるということですので、まずそれだけやっていただくだけでも、大きな地震が来たときに命を守ることにつながっていくというふうに思っておりますので、よろしく。

あとは、物すごく古い昭和56年以前に建った建物については耐震補強をしっかりともらうと、これも必要不可欠なことでありますので、多分そういう家庭は少ないというふうに思いますが、それについても確認をぜひしていただきたいというふうに思います。

それから、一番心配をしているのは、先ほどもちょっと触れましたけれども、ゲリラ豪雨 1時間

に 100ミリ以上の降雨が 2時間続くという、もう排水機能がちょっと無理であります。どこも床下浸水、あるいは床上浸水になる危険性はたくさんありますので、大きな雨が降ったときには高いところに避難するという計画はしっかりつくっておいていただきたい。とりわけ、こんなこと言うところと心配に拍車をかけるかもしれませんけれども、下小笠川についてはある意味では天井川でもありますので、そういうことに対する対応もぜひしっかりやっていただきたいというふうに思います。

いずれにしても、防災ガイドブックが多分もう家庭にない方もたくさんいらっしゃると思いますので、きょう帰りに防災ガイドブックを皆さんに配付するようにしてください。

以上です。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

○9番（岡部彩乃君） 2つ目の質問についてです。

先ほど 1人の教員が複数の部活動の顧問を受け持つのは仕方がないことだというのがわかりましたが、私の部活も副顧問の先生がもう一つ部活動を持っていて、最後の大会に来ていただけなくて部活動の人たちが結構悲しかったので、せめて中体連の日程がかぶっていない部活動同士で顧問を受け持ってもらえることは可能でしょうか。

○議長（齋木大地君） 答弁願います。

笹本教育部長。

○教育部長（笹本厚君） なかなか大会の予定等がかぶっていたりということで難しいことだとは思いますが、なるべくなら副顧問という形で複数の部を掛け持ちをしますと、先生自身も大変で多忙な毎日を送っておりますので、そういったことのないように先ほど言いました外部の指導者を入れるとかというような形をとって、そういった悲しい思いがないような対策をしていきたいと思えます。

以上です。

○議長（齋木大地君） 再質問ありますか。

9番、城東中学校。

○9番（草間一陽君） 再質問はありません。ぜひ検討をお願いします。

○9番（岡部彩乃君） 再質問はありません。ぜひ対策をお願いします。

○議長（齋木大地君） 以上で、9番、城東中学校の質問は終わりました。

日程第3 議員提出議案第1号

○議長（齋木大地君） 日程第3、議員提出議案第1号、かけがわ中学生議会宣言を議題とします。

提出者を代表して桜が丘中学校、高橋駿介副議長から提案理由の説明を求めます。

高橋駿介副議長、御登壇願います。

〔副議長 高橋駿介君 登壇〕

○副議長（高橋駿介君） ただいま上程されました議員提出議案第 1号、かけがわ中学生議会宣言の提案者を代表して、桜が丘中学校 3年、高橋駿介が提案説明を行います。

私たちは市民の一員としてさらに自覚を持った行動力が必要と考え、市内 9中学校から宣言文を募り、「かけがわ中学生議会宣言」としてまとめ上げました。この宣言が掛川市の全中学校における指針となることを願い、これより宣言文の案を読み上げます。

かけがわ中学生議会宣言。

私たちは掛川市の全中学生の代表として、また、将来の掛川市の担い手の代表として次のことを宣言します。

1つ、私たちは、自らを律し、豊かな心と健やかな体で、未来の掛川を担います。

1つ、私たちは、市民が笑顔を絶やさず生活することができるよう、思いやりと真心を持って行動します。

1つ、私たちは、高齢者や若者が生きがいをもって暮らせる地域をつくり上げるために、主体的に行動します。

1つ、私たちは、地域の行事に積極的に参加します。

1つ、私たちは、未来の豊かな掛川のため、住みやすい環境づくりに貢献します。

1つ、私たちは、郷土に誇りをもち、歴史と伝統・文化を未来に継承していきます。

1つ、私たちは、掛川のことをより深く学び、掛川のすばらしさを世界に向けて発信します。

以上、ここに宣言するとともに、18歳を迎えたときには責任を持って選挙に参加し、自分の意思を表明していきます。

平成29年 8月 3日。

かけがわ中学生議会。

最後になりますが、この宣言が全会一致の上、決定されることをお願いして、提案説明とさせていただきます。

○議長（齋木大地君） お諮りします。

本件については質疑、討論は省略し、直ちに採決したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○議長（齋木大地君） 御異議がありませんので、質疑、討論を省略し、これより議員提出議案第 1号の採決をします。

本件は原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

○議長（齋木大地君） 全員起立であります。

したがって、本件は原案のとおり可決されました。

以上で本日の日程全部を終了しました。

閉会に当たり、中学生議会議員を代表して挨拶申し上げます。

〔議長 齋木大地君 登壇〕

○議長（齋木大地君） 本日の中学生議会を通してたくさんの貴重な経験を得ることができました。教えていただいたことを無駄にせず、これからも掛川市民の一人として誇りに思える活動を続けていきたいと思えます。

また、大変お忙しい中、私たちの質問に丁寧に御答弁いただいた松井市長を初め、皆様方に対し、中学生議員を代表いたしましてお礼を申し上げます。

本日は長時間にわたりお疲れさまでした。（拍手）

○議長（齋木大地君） これにて本日の会議を閉じ、かけがわ中学生議会を閉会とします。

○議会事務局長（栗田一吉君） それでは、齋木大地議員には自席にお戻りいただきます。

〔齋木大地君 自席に着座〕

○議会事務局長（栗田一吉君） 閉会に当たりまして、浅井副市長から講評をいただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

〔副市長 浅井正人君 登壇〕

○副市長（浅井正人君） 長時間にわたりまして、また、厳粛な雰囲気の中、大変すばらしい中学生議会であったというふうに思います。中学生の皆さん、本当にありがとうございました。

さて、少しエピソードを紹介したいと思います。

今から62年前、昭和30年 1月15日、古い新聞からです。「掛川市内の 3つの中学校の代表 6人の中学生が市長さんに物申す」というタイトルでございます。

東中、西中、そして今はありませんが、東山口中学校、この 6人が市長室へお見えになって御意見を言っています。講堂を欲しい、今の体育館です、体育館を欲しい、あるいは道に歩道をつけてほしい、宣伝カーがやかましいので、学校のそばではやらないように札を立ててほしい、さまざまな御意見を市長さんに向かってお話をしています。その 6人のお名前が載っていて、その中に高木敏男君というお名前があるんです。今こちらで笑みがありますが、高木敏男さんは当時中学生で意見を言ったわけですが、その後大人になって、さまざまな大事な仕事をされた後に議員になっ

て、市議会議員14年間もお務めになって、この掛川市をよりよくするために本当に多大な御貢献をした方であります。

きょう昨年から 2回目になりますけれども、皆さんもきっと市政や、あるいは議員というお仕事、議会という仕組みそんなことに大変な興味とある意味貴重な経験をされたわけですので、どんな志をお持ちになったのでしょうか。何としても市民のために、掛川市の未来のために働きたいとそんなふうにしたことだろうというふうに思っています。

一人一人が市民の代表になった、そして学校、学級を代表して疑問を投げかけ、新しい提案をしていただきました。掛川市の魅力、掛川市の誇りをもっと向上させて素晴らしいまちにしたい、若い人をふやしてほしい、高齢者も住みやすく、防災を、観光を、路線バスを、中・高校生が参加するイベントを、校舎のこと、英語力のこと、そして小・中一貫教育のこと。小・中一貫教育のところは掛川市議会で本物の議員さんもいろいろ議論をしていますけれども、それよりも一歩前に行った質問だったというふうに感じております。

中でもうれしかった言葉は「我々中学生のような市民の力をどう使うか」という発言、そして「私たち若い世代にも責任がある」こんなに素晴らしい言葉がありました。ほかにもいっぱいあったと思います。

今掛川市は協働によるまちづくりを進めていますので、きょうのような中学生を初めとした若者、この力をまちづくりに生かしていくことがとても大事だとみんな考えています。これに感動をいたしました。

さらには、生活困窮、ひきこもり、認知症、体の不自由な人の登校、そんな福祉の課題、こんな弱い方のことも一生懸命考えてくれたことも大変感動いたしましたし、今日の社会の状況をよく研究をされていると、テレビや新聞、インターネットもあるでしょうけれども、社会を研究されているということに大変感心をし、中学生とは思えない頼もしい姿でございました。

そして、「かけがわ中学生議会宣言」大変素晴らしいお取り組みをいただきましたし、9つの中学校の総意であると、この7つの項目はいずれも今日の課題に正面からみずから立ち向かう強い意思、大変立派なものだと思います。7つ目の項目にありますように、この「かけがわ中学生議会宣言」を全国に情報発信をしていきたい、みんなですていきたい、そんなふうに思います。

そして、皆さんはまた学校に持ち帰って友達にきょうの経験をお話しし、さらに議論して新しい提案、新しい企画をつくって、昭和30年の高木さんのように代表して市長室に提案に来てほしい、そんなふうに思っております。皆さんが行動を起こすとき、私たち大人は皆さんの背中をしっかり押してまいります。

このようなすばらしい中学生議会ができましたのはこれまで御指導いただきました、計画をいただきました掛川市議会議員の皆様、そして学校の先生方、そして御両親や御家族の皆様のおかげだと厚く御礼を申し上げます。

まとめとして、きょうの議会は私たち大人が中学生から学ぶ貴重な時間であったというふうに評価をしたいと思います。皆さんのさらなる成長と掛川市の未来に大きな期待を抱いて、心から感謝申し上げまして講評といたします。

本日はまことにありがとうございました。

○議会事務局長（栗田一吉君）　ありがとうございました。

以上で、かけがわ中学生議会の日程全部を終了いたしました。

午後4時45分　閉会